

適合タイヤサイズ： 24インチ～最大 700 x 45c (ETRTO 47-622)
(タイヤ直径最大 726mm まで)



ご使用になる前に、この説明書をしっかりとお読みください

お問い合わせ先

<販売元>

株式会社 深谷産業

〒 462-0062 愛知県名古屋市北区新沼町 150
Phone (052) 909-6201 / Fax (052) 909-6212
www.fukaya-sangyo.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦

〒 503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1
www.minoura.jp
● 営業部
Phone (0584) 27-3131 / Fax (0584) 27-7505
minoura@minoura.jp
● カスタマーサービス
Phone (0584) 27-3132 / Fax (0584) 27-4258
infodesk@minoura.jp

修理をご依頼の場合は、まず添付の製品保証規定をよくお読みになった上で、まず最初にお買い求めになったショップにご相談ください。

注意していただきたいこと

- 通常の2輪自転車専用です。タンデム車やリカンベント車など特殊な自転車には不適です。
- 24インチから最大700x45c (ETRTO 47-622) までのタイヤにフィットします。29インチサイズのイヤはこのモデルでは使用できません。26x1.0インチ (ETRTO 25-559) 以下のサイズのタイヤで使用する場合は、添付のZ型小径ホイールアダプタを負荷装置の下に装着する必要があります。
- 使用する自転車のホイールがクイックリリース式である場合は、添付のクイックリリースに取り替えてください。レバーの形状差により、添付のクイックリリース以外で使用した場合の安定性は保証しません。クイックリリース式ではない通常のハブナット式のホイールの場合は、添付のクイックリリースは使用せず、右側カッピング (F-1) からグロメット (F-9) を取り外しておいてください。

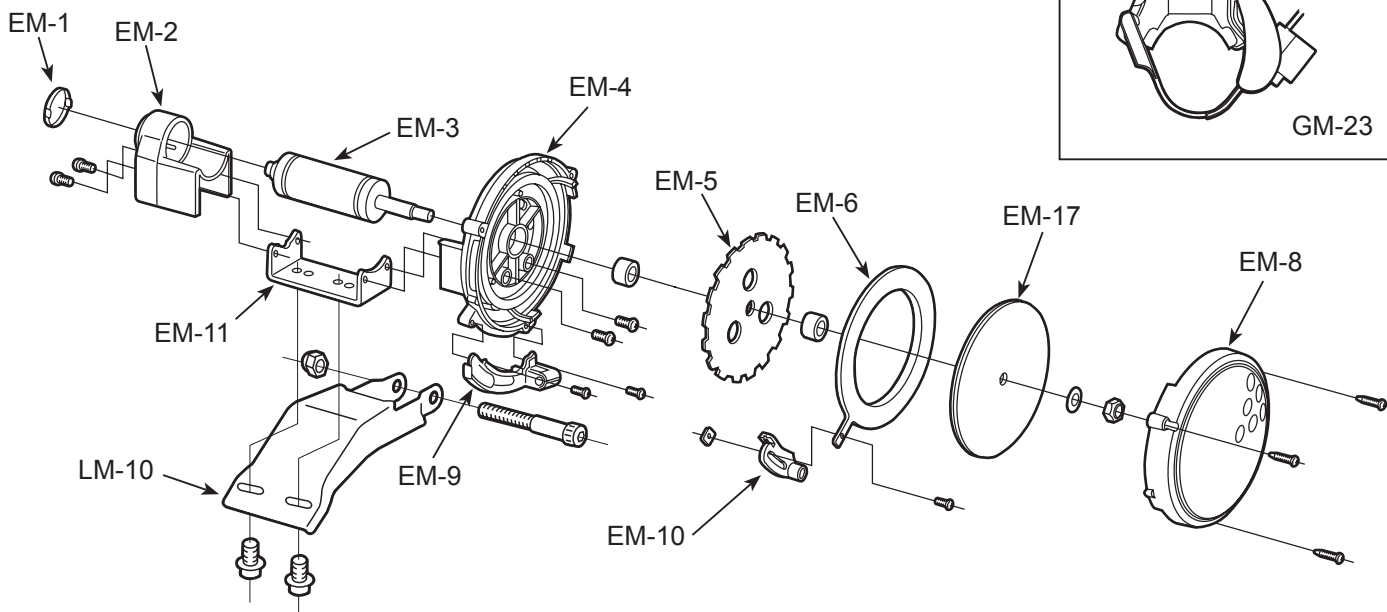
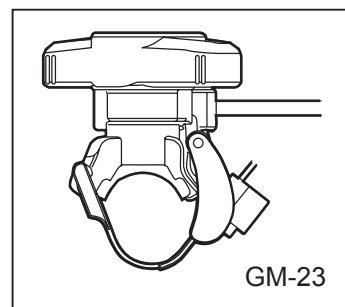
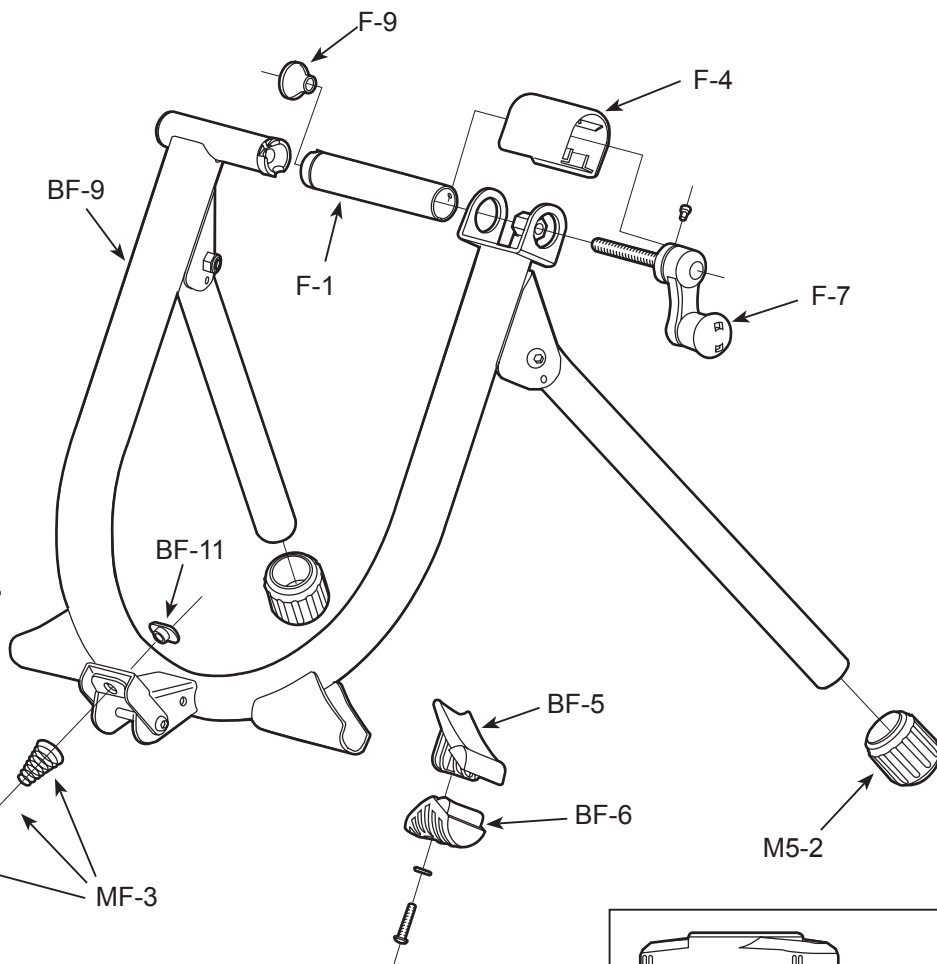
クイックリリースとは：

工具を使うことなくワンタッチでホイールの脱着ができる機構。ハブナット式ホイールをクイック式に変更するにはハブ自体を交換する必要があり、それはホイールの組み直しを意味するため非現実的です。

- トレーナーは水平で平坦な床の上に設置してください。傾いた場所では転倒の恐れがあります。床の材質によってはゴムキャップにより変色することがあります。トレーナーの下にマットなどを敷いてください。
- 負荷装置のローラーをタイヤに押し当てる量は適切に調整してください。ローラーを強く押し付け過ぎたり、逆に軽く触れる程度でしかないと、タイヤは異常磨耗を起こしてしまいます。タイヤドライブ式トレーナーにおいては構造上タイヤの磨耗は避けられませんが、適切に調節することにより、路上走行並みに寿命をのばすことは可能です。またローラーの磨耗をできるだけ少なくするため、自転車を装着する前には、タイヤに付着した砂埃などをきれいに拭き取っておいてください。ローラーは消耗品です。
- B60-Rには自転車を降りることなく7段階に負荷を調整することができるリモコンシフターが備えられています。ノンリモコン式のモデルはB60には用意しておりません。リモコンケーブルを外すと負荷装置は最大負荷の位置で固定されます。錆びによるトラブルを防止するため、リモコンシフターやケーブルには汗などを付着させないでください。
- トレーナーの使用中は、回転しているホイールやローラーなどには絶対に触れないでください。また小さな子供やペットなどを使用中のトレーナーに近づかせないでください。
- もし使用中に異常なおい・振動・異音などを感じた場合は、すみやかに使用を中止し、お買い求めになったショップにご相談ください。
- 自転車のトレーニング以外の目的には使用しないでください。またこのトレーナーにおける使用速度は最大限45km/hまでとし、それ以上の速度はユーザ自身のリスクでのものとします。
- 弊社はこのトレーナーを最初に新品で購入したユーザに限り、ご購入後1年間の品質保証期間を、負荷装置およびフレームに設けています。弊社の設計・製造上の不具合点に起因するトラブルに関しては、この期間中は無償で対応いたします。ただしユーザによる誤った使い方や破損、弊社の許可を得ないままの改造や分解、最初から想定されている自然磨耗や消耗、および輸送中の取り扱いによる破損・汚損などについては、弊社はその責を負いません。またいかなる理由があろうとも、いっさいの中古品や並行輸入品に関しては日本国内での保証の対象外とします。詳しくは添付の「製品保証規定」カードおよび弊社ウェブサイト (www.minoura.jp) をご参照ください。

B60-R 部品名称

- F-1: 右側カップリング
- F-4: カップリングカバー
- F-7: ハブハンドル
- F-9: グロメット
- BF-5: 脚カバー (白)
- BF-6: 脚ゴム
- BF-9: B60 フレーム (黒)
- BF-11: 板ナット
- M5-2: 29mm ゴム脚キャップ
- MF-3: 加圧調整ノブセット



- | | |
|----------------------|---------------------------|
| EM-1: キャップ | EM-9: リモコン取付台座 |
| EM-2: 軸受 | EM-10: ケーブルガイド |
| EM-3: ドライブローラー・ベアリング | EM-11: ケースつなぎ板 |
| EM-4: 内側ケース | EM-17: フライホイール (600g) |
| EM-5: アルミプレート | GM-23: リモコンシフター (白/樹脂バンド) |
| EM-6: 磁石板 (リモコン用) | LM-10: 負荷装置取付板 |
| EM-8: フライホイールカバー | |

B60-R のセットアップのしかた

必要な工具： 1 × 10mm スパナ
1 × M4 六角レンチ

(いずれも添付しておりません。ご自身でご用意ください)

1. まず最初に、お使いになる自転車の後輪のクイックリリースを添付のものに取り替えます。
このトレーナーに付属のクイックリリースを使用している場合に限り弊社はその安定性に関して責任を持ちます。



もしお使いの自転車がクイックリリース式ではなく一般のハブナット式であった場合には、右側カップリングの先端からグロメット(クイックのナットを傷から保護する黒い樹脂部品)を取り外しておいてください。グロメットを取り外さないままでハブナット式のホイールを取り付けると、荷重をかけた際に外れてホイールごと脱落してしまう恐れがあります。



このトレーナーに添付のクイックリリースを装着したまま路上を走行することはまったく問題ありません。
安心してお使いいただいて結構です。

2. 添付の M6x50 ボルトと M6 ナイロンナットを使って、
負荷装置を本体フレームの金具上に取り付けます。
ボルトとナットは負荷装置取付板 (LM-10) に仮止め
されていますので、取り外して組み付けてください。

続いて板ナットをを本体金具の孔の裏側にはめ込み
(図 A-2)、そこに表側から加圧調整ノブセット (MF-3)
をねじ込みます。(図 A-2)

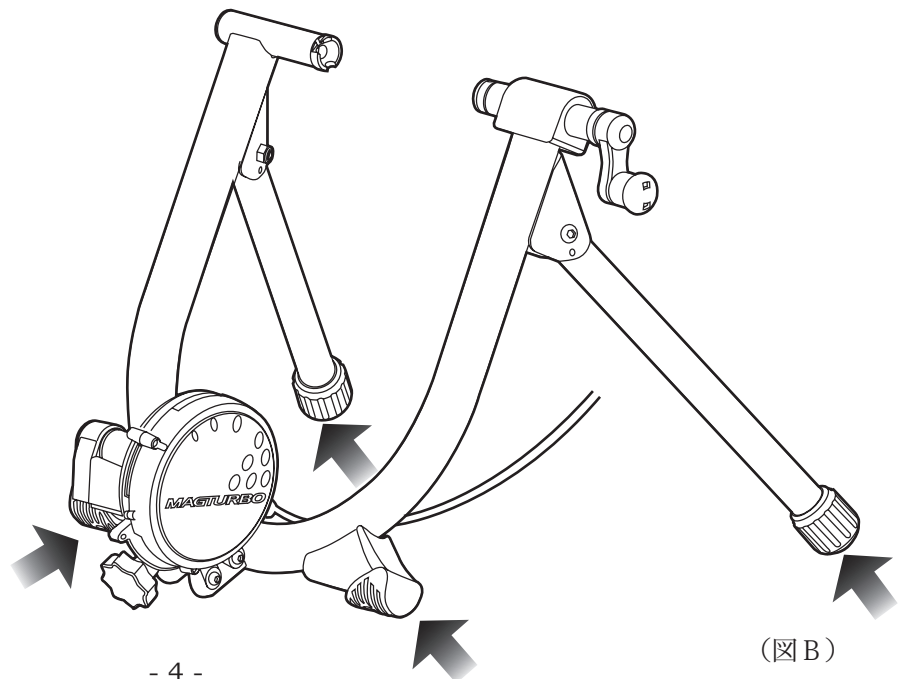
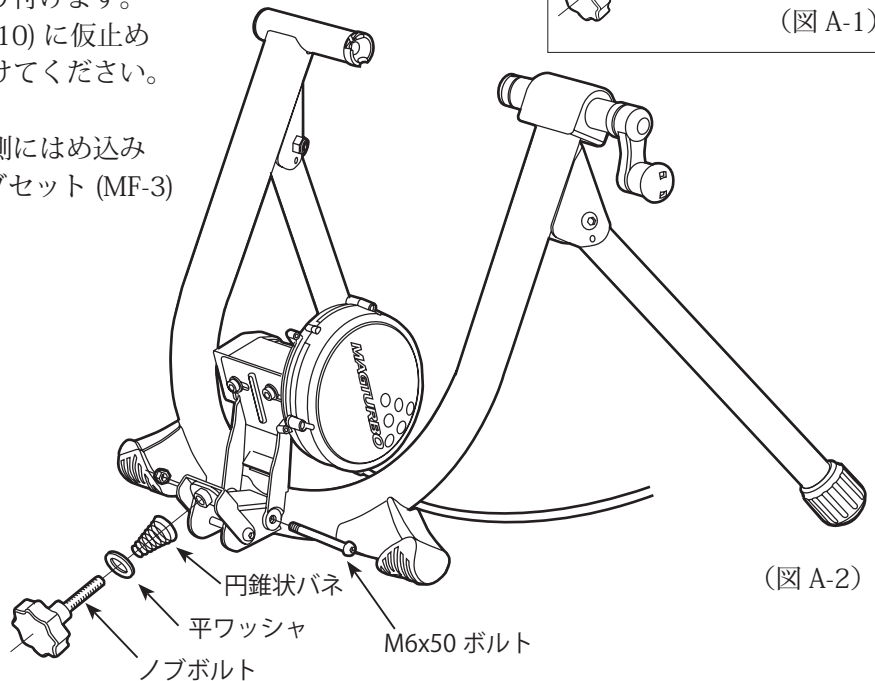
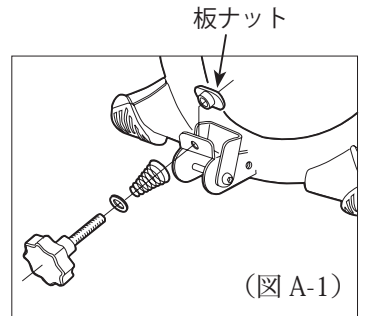


M6x50 ボルトの締め付けトルクは適切に調整してください。
強く締め付け過ぎると、負荷装置は動かなくなります。
逆に緩すぎると、負荷装置が早く動きすぎて指などを挟む恐れがあります。
持ち上げた負荷装置が 0.5 秒ほどかけてゆっくりと降りてくるくらいが適切です。



円錐状バネの向きは図 A-2 の通りにしてください。
誤った向きだとノブボルトをスムーズに回せなくなります。

3. 脚を両方ともいっばいに開き、水平で平坦な床の上に置いてください。
このとき、脚先などの先端 4 ヶ所がすべて同時に床に接地していることを確認してください。(図 B)



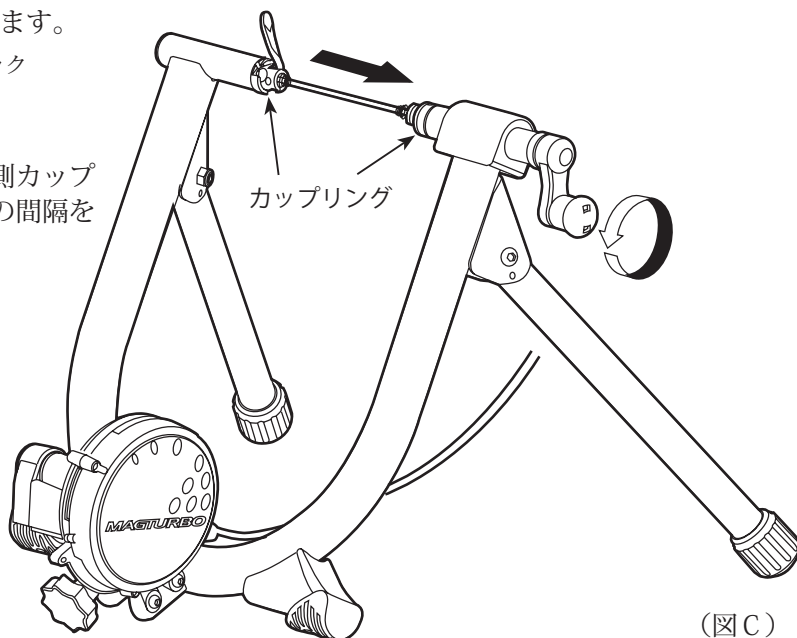
4. 自転車の後輪を左右のカップリングの間に置きます。

(右図ではわかりやすいようにホイールは表示せず、クイックリリースのみを表示しています)

- 1) まずハブハンドルを左回りに回し、右側カップリングを引きこんでカップリング同士の間隔を広くあけておきます。(図C)



ハブハンドルはほぼいっぱい
に緩めることにはなりますが、**限度を超えて**までは回さないで
ください。
無理に回してしまうと、その力
で内部のナットが緩んでしまい、
ハンドルが空回りしてしまう原因
となってしまいます。



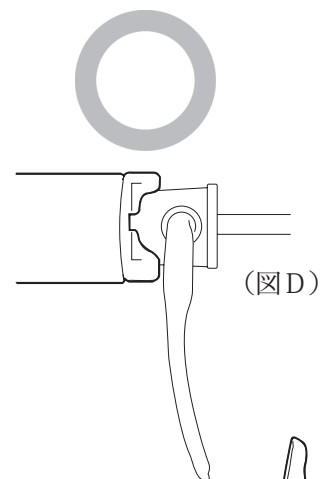
(図C)

- 2) まず先に、クイックリリースの左側（レバー側）を左側カップリングの中に挿入します。このときカップリングの縁に設けられている切り欠きのうち、大きい方がレバーの根元に来るようにカップリングを指で回して調整してください。(図D)
もしレバーのシャフト部がカップリングの縁に乗り上がってしまっているとしっかりと保持されなくなり、最悪の場合、荷重がかかったときに自転車ごと外れて転倒してしまう恐れがあります。
- 3) この状態を保ったまま静かに自転車を下ろしていき、クイックリリースの右側（ナット側）が右側カップリングと同じ高さになったところでいったん止めて保持します。
- 4) その位置でハブハンドルを右回りに回して、右側カップリングでハブ軸を挟み込んでいきます。変速ケーブルなどはカップリングの上を通すなどして、一緒に挟んでしまわないように注意してください。十分にハブ軸が挟み込まれ、ハブハンドルを回す力に抵抗がかけられ始めフレームが軽く広がるようになってきたら、そこでいったんハブハンドルを回すのを止めます。
- 5) ハブハンドルをもうあと2回転だけ回して終了します。それ以上締め込んでもトレーナーのフレームや自転車に余計なストレスを与えるだけなのでやめてください。



左右のカップリングは、トレーナーに添付のクイックリリースにのみぴったりと合うように作られています。特に左側（レバー側）は図Dのようにレバーが切り欠き部により逃げていなければなりません。

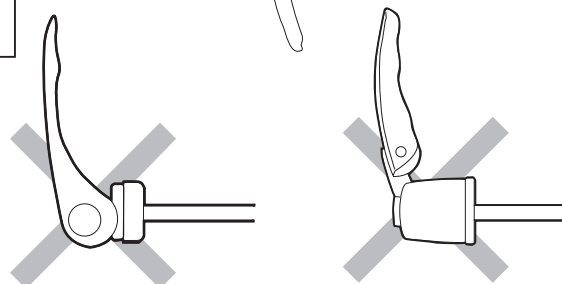
一部の市販のクイックリリースはそのままこのトレーナーでも使用できますが、シャフトの延長上にレバーがあるタイプ(図E)や、いっばいにレバーを倒しても直角を超えてこないタイプ(図F)ではしっかりと保持できなくなるため使用できません。



(図D)



ハブハンドルは必要以上に締め込まず、適度な締め付けにとどめてください。
強く締め付け過ぎるとトレーナーや自転車のフレームに悪影響を与える恐れがあります。
また弱すぎると荷重がかかった際に外れて脱落してしまいます。



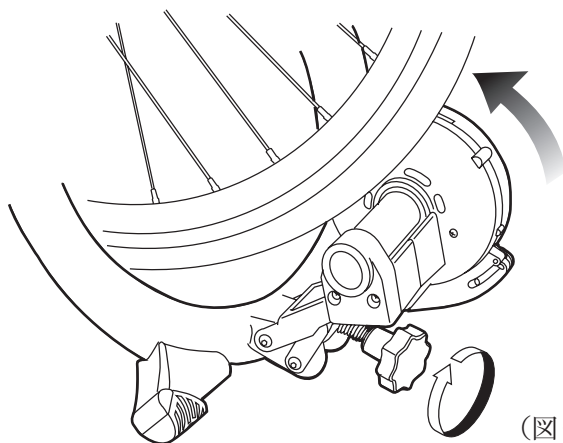
(図E)

(図F)

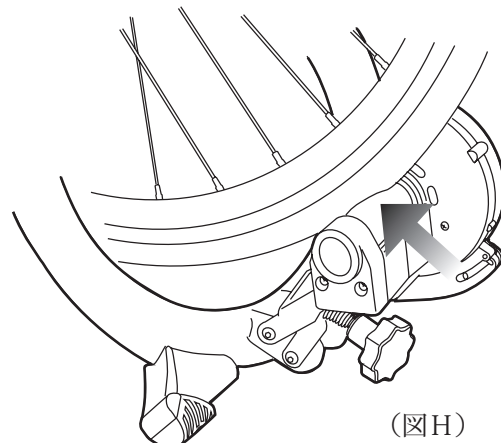
5. 加圧調整ノブを右回りに回して負荷装置のドライブローラーをタイヤに当て、そこからさらに締め込んでいきます (図G)。最適な状態は、ローラーがタイヤを3~4mm程度の深さで凹ませている状態です (図H)。もしノブを回しづらい場合は、片手で負荷装置を持ち上げて浮かせてやると軽く回すことができます。



ローラーの押し付け量は適切に調整してください。
強く押し当てすぎるとタイヤが加熱しバーストする恐れがあります。
逆に弱すぎるとタイヤ表面を消しゴムのように早く磨耗させてしまいます。



(図G)

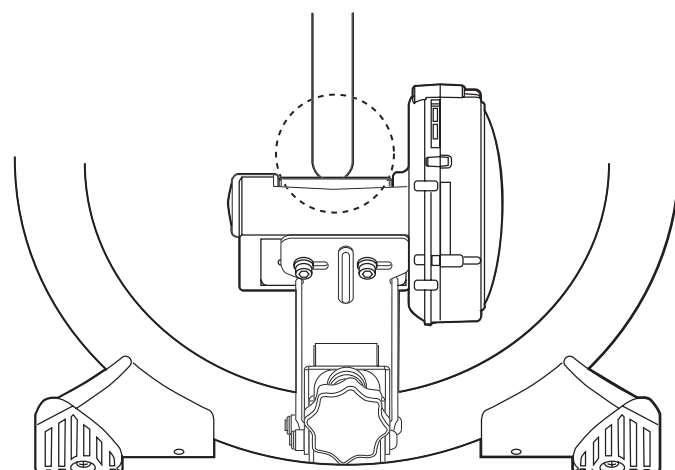


(図H)

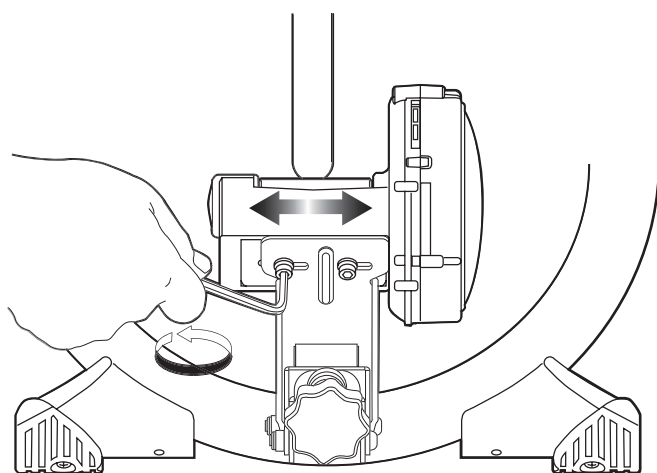
6. 後輪タイヤはドライブローラーのほぼ中央部にあり、負荷装置の他のどの部分にも触れていない状態であればなりません。(図I)

もしホイールが歪んでいたり、装着しているタイヤが太すぎるなどの理由でタイヤが負荷装置の樹脂ケース部分に接触してしまっている場合は (図K)、負荷装置裏側の2本のボルトをM5六角レンチで緩めることで負荷装置全体を左右に位置調整することができます。(図J)

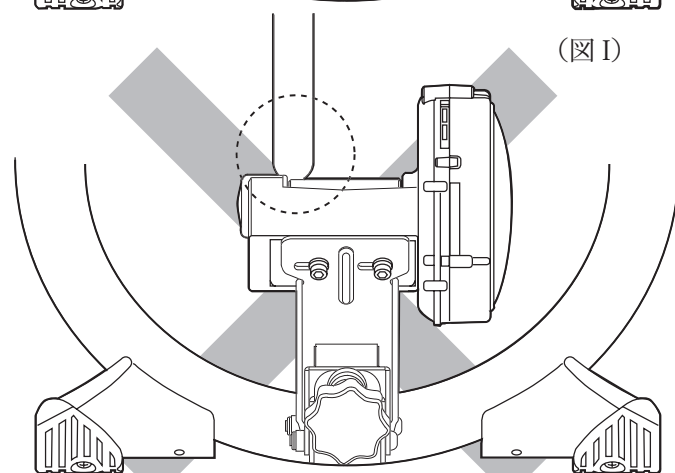
調整し終えたあとは再びボルトをしっかりと締め込んでおいてください。



(図I)



(図J)



(図K)



もしタイヤがドライブローラー以外の部分に触れたまま使用していると、その部分が破損したりタイヤが異常磨耗を起こす恐れがあります。これらは保証の範囲外です。

7. 自転車をトレーナーから取り外すには、まず加圧調整ノブを左回りに回してドライブローラーをタイヤから離し、それからハブハンドルを緩めていってください。
もしドライブローラーの位置を戻さないままハブハンドルを緩めて自転車を取り外してしまうと、次に自転車を装着する際にタイヤが出すぎたローラーに引っかかってしまい、やりにくくなってしまいます。

リモコンシフターについて

必要な工具： M4 六角レンチ 1本
(ご自身でご用意ください)

B60-Rには便利なりモコンシフターが装備されています。
このシフターをハンドルバーなどに装着することで、いちいち自転車を降りることなく負荷を7段階に調節することができます。
負荷は自転車側のギア操作でも調節することはできますが、より効果的なトレーニングのためにはリモコン式の方が適しています。

リモコンシフターの取り付け方：

- 1) 樹脂製のバンドをハンドルバーに巻きつける。
- 2) バンド先端のリング部をシフター基部のフック部に掛ける。(図L①)
- 3) パチンとレバーを閉じて締め付ける。(図L②)

バンド調整について：

リモコンシフターのバンドはあらかじめ一般的な直径22mmのハンドルバーサイズに合わせてあります。
もしそれがきつかったり緩かったり、あるいは径の異なるオーバーサイズハンドルバーやステムなどに取り付ける場合は、M4六角レンチで調整ネジを回し、バンドの長さを調整してください。(図N)



バンドや調整ネジは樹脂でできていますので、無理に回すとネジ山が壊れてしまいます。
バンドを調整するには、あらかじめフックからバンドを外しておいてから行なうことをお勧めします。

負荷調整のしかた：

負荷は7段階に強弱を調整することができます。

負荷を上げるには

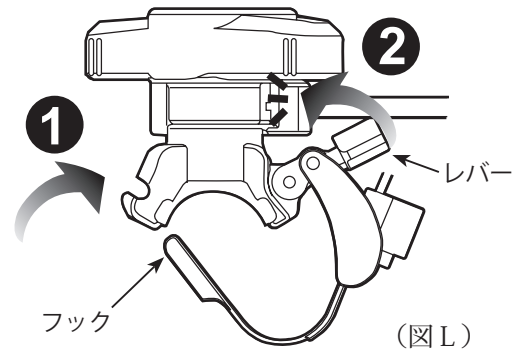
レバーをH方向に回す。

負荷を下げるには

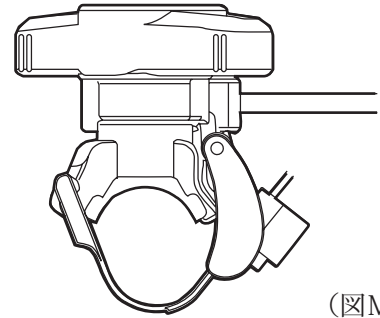
レバーをL方向に回す。



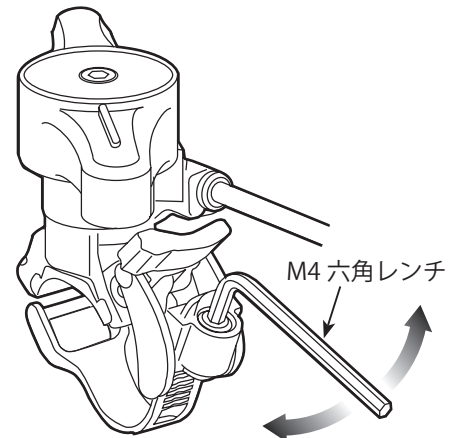
Lでも負荷がゼロというわけではありません。
ローラーがタイヤを押し付けている分だけの負荷は少なくとも発生しています。



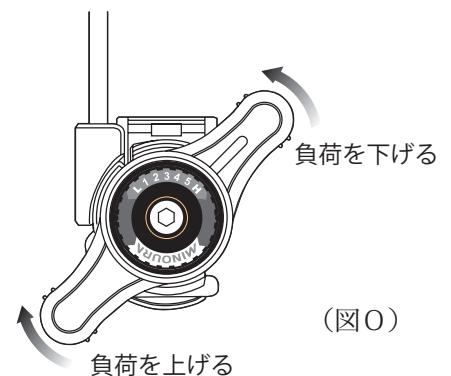
(図L)



(図M)



(図N)



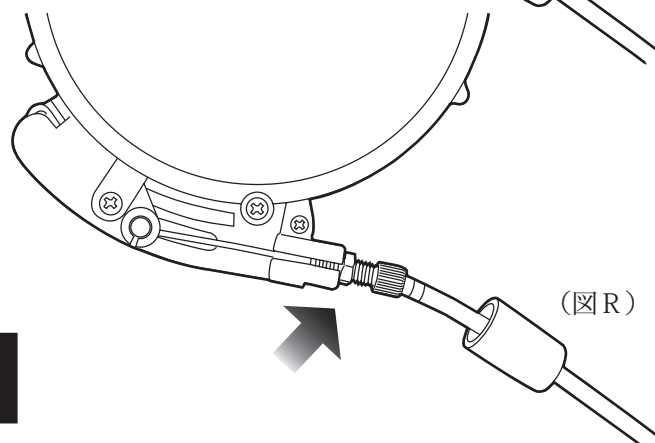
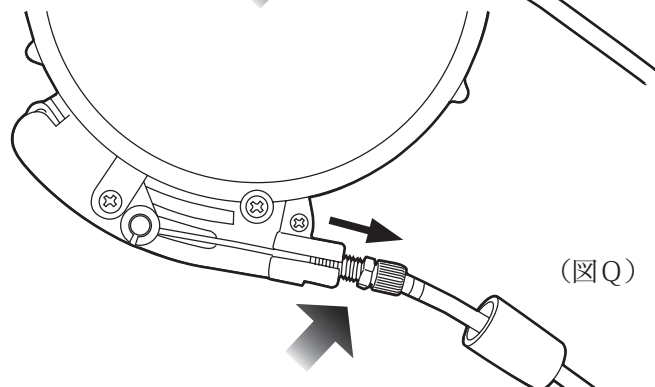
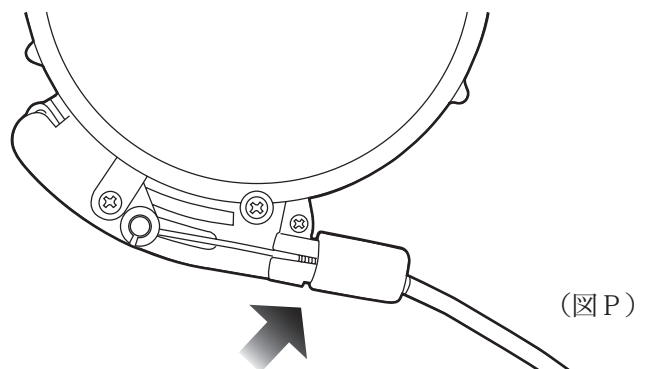
(図O)

リモコンがうまく動かないときは

しばらく使用しているうちに、レバーをLやHにセットしても正しく指定したレンジにならないことがあります。これはインナーケーブルが伸びてきたためです。

以下の方法でケーブルの遊びを調節してください。

1. リモコンシフターをハンドルバーから取り外し、シフターレバーをHにセットして、できるだけまっすぐに伸ばして床の上に置きます。
2. リモコンケーブルの根元にかぶせてある黒い樹脂キャップを引き抜きます。(図P)
3. 中から現れた調整ネジを持ってアウターケーブル側に押し付けます(調整ネジと負荷装置との間に隙間を作ります)。(図Q)
この状態で調整ネジのロックナットを、負荷装置の樹脂ケースに触れるまで回します。(図R)
4. 調整が済んだらリモコンシフターを操作して、LからHまでのポジションにちゃんとセットできるかどうか、Hにしたときにケーブルが弛んでしまわないかどうかをチェックします。
最後に樹脂キャップをかぶせます。



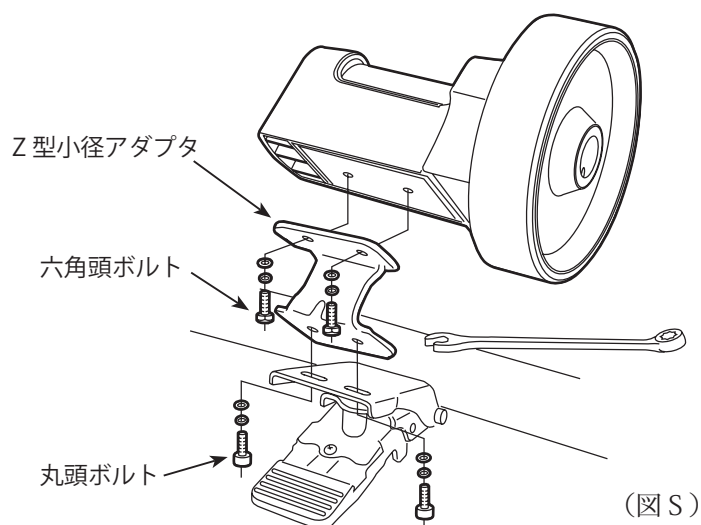
小径ホイールアダプタの使い方

もしこのトレーナーを26 x 1.0 インチ (ETRTO 25-559) サイズ以下のタイヤで使用する場合は、添付のZ型小径アダプタを負荷装置と取付板 (LM-10) との間に装着し、負荷装置のローラーの高さを上げてやらねばなりません。このトレーナーで使用できる最小タイヤサイズは24インチです。

Z型金具の方向は決められています。矢印の印刷部を上側にし、矢印を自転車の進行方向に向けて装着してください。(図S)

もしZ型金具を使用してもローラーがタイヤに届かないという場合は、Z型金具が正しい向きになっているかどうかを確認してください。逆向きだと届きません。

もともと負荷装置を固定するのに使われていた丸頭ボルトは、取付板 (LM-10) にZ型金具を取り付けるのに使用してください。六角頭ボルトはZ型金具に負荷装置を取り付けるのに使用します。



(図はV270での場合)

必要な工具： 1 x 10mm スパナ
1 x M5 六角レンチ
(ご自身でご用意ください)